

メキシコ金融政策（2022年12月）

利上げ幅は0.5%ポイントに縮小し、利上げ局面の終了が近づく

2022年12月16日

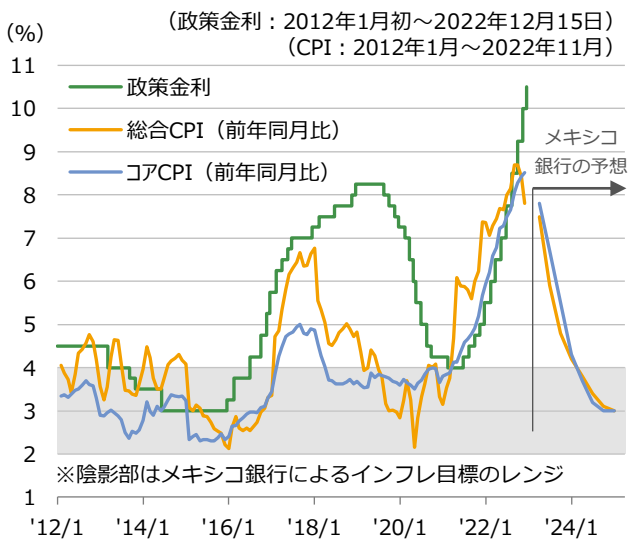
利上げ局面は終盤に入り、次回は更なる利上げ幅の縮小に動くか

メキシコ銀行（中央銀行）は12月15日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を10%から10.5%に引き上げることを決定しました。利上げは昨年6月から13回連続ですが、利上げ幅は過去4回の0.75%ポイントから0.5%ポイントに縮小しました。

コアCPI（消費者物価指数）の前年同月比は加速が続いていますが、総合CPIの前年同月比は9月の+8.7%から10月に+8.4%、11月に+7.8%へと減速し、ピークアウト感が出てきたことが利上げ幅縮小の背景にあるようです。今後の方針に関して、前回までの声明文では「実勢に基づいて利上げ幅の大きさを評価する」となっていますが、今回は「次回会合ではまだ利上げを続ける必要があると考えている。その後、更に利上げする必要があるかどうか、また利上げ幅については、実勢に基づいて評価する」に変化しており、利上げ局面の終了が近づいていることが示唆されました。

当社は、来年2月の次回会合で利上げ幅が0.25%ポイントに縮小され、そこで利上げは打ち止めになると予想しています。理由は、①政策金利がインフレ率を大きく上回っていること、②インフレ率にピークアウト感が出ていること、③前回会合（利上げ幅は0.75%ポイント）で0.5%ポイントの利上げを主張していたエスキベル副総裁が、今回は0.25%ポイントの利上げを主張したこと、④米ドル高圧力が弱まってきたことで、通貨防衛のために利上げペースを米国に合わせる必要性が低下していること、などです。

メキシコの政策金利とCPI



※CPIの予想は2023年1-3月期～2024年10-12月期 ※政策金利は決定日ベース
(出所) メキシコ銀行、ブルームバーグ

メキシコ・ペソの対円・対米ドルレート



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。